

< もくじ >	
1. 第6回 研究会合同イベント「全国初の“終活互助”へのチャレンジ」のお知らせ（再掲）	1
2. 2020年度一般社団法人シニア社会学会総会・大会のご案内	1
3. 第6回「あれから9年 わたしたちはフクシマを忘れない～帰還しないと決断したふるさととの絆～」シンポジウムの概要報告	1
4. 各研究会の開催日程のお知らせ	3
5. 各研究会の概要報告	4
6. 高畑敬一さんを偲んで	6

## 1. 第6回研究会合同イベント「全国初の“終活互助”へのチャレンジ」のお知らせ（再掲）

(1) 日 時：2020年3月14日（土） 13：30～16：50

(2) 会 場：武蔵野徳洲会病院4階講堂

（JR中央線武蔵境駅北口、⑤番 関東バス「ヴィーガーデン西東京行き 武蔵野徳洲会病院前下車、10分）

(3) テーマ：全国初の“終活互助”へのチャレンジ！

「人生100年」時代、でも施設は一杯。民間は高い。終身介護も疑問。  
あなたは どうする？

(4) 共 催：ガバナンス研究会・地域サロンぷらっと

(5) 参加費：500円（資料代、学生200円）

※ 年恒例の、研究会合同イベントです。今回はガバナンス研究会（川村匡由座長）の担当です。  
添付するチラシを参照の上、奮ってご参加ください。

## 2. 2020年度一般社団法人シニア社会学会総会・大会のご案内

2020年度の総会・大会は、**来る6月14日（日）**に開催です。本年は当学会創立20周年を迎え、「創立20周年記念大会」として開催しますので、多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

大会では、袖井孝子会長に基調講演をお願いし、その後、袖井孝子会長、濱口晴彦副会長、神野 毅副会長による鼎談を予定しております。これまでの20年の学会活動を振り返るとともに、これからの学会のあり方について、会場の皆様とともに議論する場になるよう企画を練っております。

会場は、昨年度までお世話になった駒澤大学から「お茶の水女子大学」に変更になりますが、教室は未定です。詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

## 3. 第6回「あれから9年 わたしたちはフクシマを忘れない～帰還しないと決断したふるさととの絆～」シンポジウムの概要報告

(1) 日 時：2020年1月25日（土） 14：00～17：00

(2) 会 場：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室

(3) 共 催：早稲田大学総合人文科学研究センター〈現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究〉部門・一般社団法人シニア社会学会「災害と地域社会」研究会  
科研費基盤研究A「大規模災害からの復興の地域的最適解に関する総合的研究」

#### (4) 登壇者プロフィール

大橋庸一（双葉町出身）。長年商事会社に勤め、退職後、双葉町細谷地区の行政区長を10年間務める。その間に東日本大震災・原発事故を経験し、中間貯蔵施設となった双葉町への帰還は困難となる。いくつかの避難先を経て、現在は福島県いわき市で広域自治会「いわきまごころ双葉会」を立ち上げ、事務局長として活動。



岡田有一（浪江町出身）。浪江町では線路関係の仕事に従事しながら、震災前はできるだけ農業を使わない米作りに農業に取り組む。震災後は一度山形県に避難、山梨県に移動し、山形県に戻り現在に至る。浪江町自宅周辺は避難指示が解除されず、山形市と周辺地域に避難した浪江町民が集うための「山形浪江コスモス会」を結成し、会長を務める。

今里雅之（富岡町出身）。1967年に建設会社に入社、翌年から福島県浜通り地区に勤務し、その後富岡町に居住。東日本大震災・原発事故発生後、川内村・郡山を経て横浜に避難して現在神奈川県在住。「かながわ避難者と共に歩む会」と関わるようになり、2015年に「かながわ東北ふるさと・つなぐ会」を立ち上げ、会長として活動。

#### (5) シンポジウム概要

参加者は58名に上りました。登壇者は全員避難先で「ふるさと」をしのび活動を続けています。今里さんは、狭い地域ではなく東北の広域の人びととつながろうとしており、岡田さんは浪江町出身者との集いの場所、大橋さんは双葉の



細谷地区という特定地域の人と自治会を組織して、積極的に避難元とのつながりを維持しようとしています。みなさん帰還できなくなった避難元のバラバラになった人たちが集まれるような地域の魅力を思い出し発展させていく努力が必要であることを訴えておられ、帰還できないという悲痛な思いと「心の復興」の拠り所として「ふるさと」の持つ意味の重さに心打たれる思いでした。

コメンテーターの高木竜輔尚絅学院大学准教授からは、ふるさととのつながりには「帰りたいけれども帰れない」という不条理により、「通い復興」などという言葉にも見られるように、帰還、移住という2分法では割り切れない多様で複雑な面を見据えることの必要性を訴えるコメントがありました。また、浦野正樹教授からは、避難先での避難者同士のつながりの質や絆の実態、避難先でのつながりを次世代へつなげていくことの見通しについて質問が投げかけられました。

しかし、これを次世代につなげていくことには、かなり悲観的であるように感じられる発言が続き、明るい面の裏にある陰の部分に思いを致す必要を促すシンポジウムとなりました。

#### (6) アンケート回答から

会場には、司会の川副早央里（東洋大学助教）さんの授業の聴講学生も来ており、会場の雰囲気を感じていただけたと思いますので、その一部を紹介いたします。

- \* …、「復興とはなんだと思いますか。」という質問に対し、「心の復興」というキーワードをあげていらっしゃる方がいてそれがとても心に残りました。…。また、復興五輪と掲げてそれを機に福島を忘れさせようとしているという考えも印象に残りました。…。何も変わっていないのに復興五輪を掲げて表面的に成し遂げたかのような扱いをするのはおかしいと感じます。復興庁という機関まで作っておきながら、実際の被災者や被災者の方々に携わる方の考えに寄り添っていないのは、震災のことに限らず、今後も何かがおきた時の政府の問題点としてあると思いました。

- \* …。神奈川を中心に避難者コミュニティを主催している方の話で、それぞれの事情の上でできるだけ参加できるよう幅広い活動をめざして、個別の具体的な事情については避難者同士でも話題に出来ない部分もあるということで、実際に避難者同士の分断が存在することがわかりました。
- \* 今回のシンポジウムでは「夢を持ってと言われても無理だ。先が全く見えない」、「10年経っても復興していないのは考えられない」という言葉が心に残った。政府は10年一区切りとして慰霊祭や予算の打ち切りを決めているが、これは政府が実態を認識できていないことを示していると思った。災害復興や損害賠償などが政府や東電など巨大組織によって行われているため、避難者の方一人ひとりの声が届きにくく、また届いても組織の力との差にもみ消されてしまい、なかなか被災者目線の復興がなされないのは問題であると思った。



(長田 記)

#### 4. 各研究会の開催日程のお知らせ

##### (1) 第5回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ(再掲)

- 1) 日 時：2020年2月22日(土) 18:30~20:00
  - 2) 場 所：きゅりあん(品川区総合区民館F4研修室)
  - 3) 発表者：鈴木真澄及び会員
  - 4) テーマ：「人形劇 おもしろおかしくミライを学ぼう」
- ※ お問い合わせは、鈴木真澄(mme\_masumi@yahoo.co.jp)までお願い致します。

##### (2) 第19回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年2月26日(水) 18:00~20:30
  - 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
  - 3) テーマ：「役割の喪失か?役割からの解放か?」
  - 4) 参加費：500円
- ※ お問い合わせは、中村(nakamura@jaas.jp)までお願いいたします。

##### (3) 第62回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ(再掲)

- 1) 日 時：2020年2月27日(木) 18:00~20:00
  - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
  - 3) 報告者：大澤真理(東京大学教授)
  - 4) テーマ：「防災/減災と男女共同参画—『2017年度女性・地域住民からみた防災・災害リスク削減策に関する調査』を踏まえて—」
  - 5) 参加費：当分の間、頂戴しません
- ※ お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願い致します。

##### (4) 第74回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年2月27日(木) 15:00~18:00
  - 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
  - 3) テーマ：ピブリオバトル推薦本の読活<1> — 『日本国憲法』(小学館)と『日本人の法意識』(川島武宣著、岩波新書)の2冊
  - 4) 発表者：島村 健次郎、薄井 滋
  - 5) 参加費：300円
- ※ お問い合わせは、島村(ken-sima1941@jcom.home.ne.jp)までお願いいたします。

##### (5) 第125回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年3月4日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：阪本純一(JSアクチュアリー事務所代表)

- 3) テーマ：「年金制度改正の羅針盤」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室  
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで090-4436-6853

## (6) 第9回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年3月23日(月) 15:00~17:00
- 2) 場 所：上野区民館 201号室  
台東区池之端1-1-12 2階
- 3) 概 要：シニアの情報リテラシー取り纏めに向けての概要検討
- 4) 参加費：400円程度

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森(moriyasu@ied.co.jp)までご連絡ください。

## 5. 各研究会の概要報告

### (1) 第7回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年1月20日(月) 18:00~20:00
- 2) 場 所：上野区民館 201号室
- 3) テーマ：国によるデジタル・プラットフォーマーへの対応策およびIT 施策の検討のつづき

政府機関から発表されているIT 施策に関する資料について森が報告した。「デジタル・プラットフォーマー取引透明化法案」「個人情報保護法の改正」が今後の大きな動きとなり、今通常国会で審議されることになっている。

デジタル・プラットフォーマー取引透明化法案は、GAF Aだけでなく楽天なども対象であり、一方的な規約変更や送料無料強制などが問題視されている。個人情報保護法の改正については、クッキーや端末識別子が保護の対象となっている。すでに、Googleなどがクッキーを取得しない方針声明を出している。

最近、WEB上でクッキーによる情報取得の受諾を聞くポップアップが増えているが、「×を押してポップアップを消したら承認したことになるのか?」「承認ルールがよくわからないまま、一瞬で判断しなければならない」など、メンバーからは、唐突に画面に表示されるポップアップについて、具体的な説明がないとよくわからないという意見が出された。また、フェイクニュースについては、フェイクニュースを信じてしまうのは老若男女を問わない、これからのシニア世代は触れる機会が増える、多くの情報に触れることで真偽を判断するしかないが難しい、といった意見が出た。(森 記)

### (2) 第124回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2020年1月22日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：内匠 功(明治安田生命研究所 主任研究員)
- 3) テーマ：「人生100年時代に備える!」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室  
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

2018年の死亡年齢の最頻値が男性88歳、女性92歳に達し、人生100年時代が現実のものとなった今日、公的年金だけで老後生活を賄うことは不可能であり、会社員と専業主婦世帯で2100万円、夫婦とも会社員世帯で862万円準備する必要がある。

入院時の一日あたりの自己負担費用は、平均約2万円であり、高齢になると入院日数が増加する。先進医療を受ける場合、診察・検査・投薬・入院などは一部自己負担だが、先進医療部分は全額自己負担で、かなり高額になる。介護費用は、在宅介護で月約4.6万円、10年間で約620万円、施設介護で月約69.3万円、10年間で約1490万円にのぼると推計される。要介護状態に陥る時期を遅らせるには、フレイル(虚弱化)の予防と認知症の早期発見によって進

行を遅らせることが望ましい。

参加者からは、民間の介護保険について質問があり、明治安田生命の例が紹介された。認知症高齢者による踏切事故で家族に損害賠償が求められた JR 東海の例から、認知症の人によって被害を受けた場合最高 3 千万円支払う民間保険に神戸市が加入し、保険料を負担している。

長くなった人生を安心して暮らすのは容易ではないことが明らかにされ、自助努力する以外に道はないのかとため息が出るばかりである。 (袖井孝子 記)

### (3) 第 73 回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2020年1月23日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第1共同研究室

3) テーマ：「ビブリオバトル (Biblio Battle)」による推薦本の発表

4) 発表者：薄井 滋、大下 勝巳、佐藤 敬、島村 健次郎、土岐 啓子、安田 和紘

当研究会初の企画である「ビブリオバトル」で、6名から【『日本人の法意識』(川島武宣著・岩波新書)『目くじら社会の人間関係』(佐藤直樹著・講談社新書)『全国マン・チン分布考』(松本修著・集英社インターナショナル)『日本国憲法』(小学館)『犬婿入り』(多和田葉子・講談社)『団塊の秋』(堺屋太一・祥伝社文庫)】の6冊の本が推薦された。

濱口座長はコメントとして、「ビブリオバトル」は文化継承の手段であり、人間は文字を媒介にした意思疎通をはかり、多様性を保持出来る様になり今日に至った。皆さんから紹介される本を、そういう仕組みの流れの中で捉え論議出来ることが楽しみである。推薦された6冊の本はそれぞれ貴重な意味があり、今後活用し論議したい。なお、現在世界的にルールが流動化しているので、世界的に法規範をどう組み立てるかが、大切な時代になったとも述べられた。(島村 記)

### (4) 第 18 回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日 時：2020年1月29日(水) 18:00~20:00

2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ

3) テーマ：(1) 人生100年時代の暮らしのプロデュース「私が考える『自立』について」

(2) 今年のテーマを漢字(7文字まで)あるいは川柳等で表現し、発表する

「丁寧に紡ぐ」「切に生きる」「更なる探求心」「矩を越えず」「言わずとも ビール出る店 もう一軒」—これらが参加者の今年のテーマを漢字と川柳で表したものです。硬軟織り交ぜた言葉に、並々ならぬ静かな決意やユーモアも感じられました。

「私が考える『自立』について」も長命時代を生き抜くための知恵や創意工夫にあふれた意見ばかりだった中から、二つの要旨を一。

まず、男の自立を研究テーマにしている男性は「私たちは、現役時代のような性別役割分業では生活が立ち行かなくなった時代変化を読み、そうした社会システムの変更に適応するには、どうしても『個』の自立が基本的に求められていると考えています。私が考える『自立』は『共生』がセットになっていて、その二つの仲立ちをするのが『関係性をつくる』です。つまり、『自立』があつての助け合いであり、『共生』という関係性があつてこそ、助け合いが成立するものと思われれます。その関係性をつくる力や、助けを求める力も『自立』に含まれるものと考えています。」

女性の意見では「これまで得た人生の教訓は、どんな大切な家族や友人たちが存在したとしても、究極のところ『自分の魂を救い出せるのは自分自身』…人はこの諦念にも似た境地に辿り着かないと、本当の意味での精神的『自立』には到達しないと思う。『人は孤独なものだ』と悟ると、不必要に群れなくなるし、現在の人間関係から得られる恩恵に感謝できるようになり、周りを尊敬できるようになる。周りから『孤独死』と言われても、本当にその人が孤独だったとは限らない。今回急逝されたMさんの生き抜かれた姿からも、それをしっかりと学びました。」

急逝されたMさん(享年80)について、全員が「自立」「共生」論に絡めて彼の生き方に話題が集中しました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。(皆川 記)

※この月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログでご覧願います。

## (5) 第4回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2020年1月31日(金) 18:30~20:00

2) 場 所：すみまめカフェ(東京都墨田区京島)

3) テーマ：人形劇を観ながら考えましょう

4) 発表者：リーダー鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

〈認知症になっても買い物ができる商店街を〉

過去に遡り相互扶助の精神である、つけ買いや無尽、頼母子講などを見直し、AIによるデジタル、マーケティング戦略により認知症フレンドリー社会の実現を可能にすると考えます。認知症の有無にかかわらず、障害の有無にかかわらず、誰もが希望と尊厳をもって暮らせる社会であるために、徘徊できる商店街の実現を目指します。

〈人形劇、寸劇、詩吟、AIによるロボットのネットワークで共感を〉

鶴の恩返し、かぐや姫、シンデレラなどの物語でさりげなく訴えることで共感を得ることをいたします。デジタルで商店街とのネットワークをつくり、見守りや声掛けなどを行い一方で無尽等を取り入れます。参加者にシートを配布し互いにシェアし合うことで理解を深めます。

地域に欠かせない商店街の活性化を図ることで、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域のよい環境で暮らせることにつながります。(鈴木 記)

## 6. 高畑敬一さんを偲んで

NPO 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(通称ナルク)前会長の高畑敬一さんが2月8日にご逝去されました。享年90歳でした。高畑さんには、シニア社会学会の創設以来、副会長として大変にお世話になりました。高齢者が社会に参加し参画することを狙いとする市民団体をめざしたシニア社会学会ですが、会長、副会長に大学関係者が顔をそろえたため、アカデミックな色彩が強すぎるというご批判を受けることがよくありました。そうした中で、一般市民をメンバーとするナルク会長の高畑さんの存在は大変に貴重なものでした。高畑さんがいてくださるからこそ市民団体を標榜することができたように思われます。

高畑さんは、体調を崩されるまでは、大阪からおひとり理事や大会に参加してくださいました。お酒が強く、ジョークが大好きで、本当に楽しい方でした。高畑さんのご逝去は大きな損失ですが、現会長の神野 毅さんが、その後を継いで立派にナルクの活動を継続するとともに、シニア社会学会の副会長を引き受けてくださっています。日本全国はいうまでもなく、海外にまで活動の輪を広げた高畑さんのご業績を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

一般社団法人シニア社会学会会長 袖井孝子

一般社団法人シニア社会学会・事務局(水、および月または金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX:(03) 5778-4728  
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>